

第3学年 国語科学習指導案

2組 児童 男子17名 女子23名 計40名 指導者 平 沢 啓 一

1 せつめいのしかたを考えて、食べ物のみみつブックをつくろう

教材「すがたをかえる大豆」 著者名 国分 牧衛 (光村図書3年下)

「食べ物のみみつを教えます」

<身に付けたい力>

- 中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読む力
- 構成や段落相互の関係に注意しながら、文章を書く力

言語活動

食べ物のみみつブックをつくる

2 単元について

第3・4学年における「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。また、「書くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」である。

本単元では、中心となる語や文をとらえ段落相互の関係を考えながら読んだり、筆者の書き方の工夫を見つけたりする学習を通して、次の教材の「書くこと」の「食べ物のみみつを教えます」を言語活動として設定した。その中で制作する「食べ物のみみつブック」は、4年生に紹介することを目的として進めていく。このように「読むこと」「書くこと」を組み合わせるにより、「読むこと」で身に付けた力を使って「食べ物のみみつブック」をつくること、それぞれのねらいを一層効果的に実現することができると考え、領域を複合させた単元を構想した。

本教材「すがたをかえる大豆」は、「はじめ」、「中」、「終わり」の3つのまとまりで構成されている。「中」の段落には、「大豆をおいしく食べるための工夫」と「手の加え方」が述べられているが、それらは簡単なものからより複雑なものへと変化していく。そこで、中心となる語や文をとらえ、指示語や接続語、繰り返し使われている語句に着目し、段落相互の関係を考えながら読むことにより、「大豆をおいしく食べるための工夫」や「手の加え方」について読み取っていくことができる。本教材は、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読むのに適した教材である。

指導にあたっては、「食べ物のみみつを教えます」の学習で、興味をもった食べ物を選び、自分が調べたい事柄について情報収集し、先の説明文をよい参考例としながら、集めた情報を分かりやすく文章にまとめる学習活動を展開していく。学習のはじめに「食べ物のみみつブック」を作って全校のみんなに読んでもらおうという課題を設定し、児童が最後まで目的意識を持てるように学習を進めていく。

【単元の目標】

- 伝える方法に興味を持ち、文章全体の関係を考えながら、文章を読んだり書いたりすることができる。
- 筆者の書き方の工夫を見つけるために、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を読むことができる。
- 身近な食べ物について調べ、書きたいことが明確に伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。
- 接続語が文と文の意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。

<単元の評価規準>

国語への関心・意欲・態度
・文章の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら読もうとしている。
読む能力
・「問い」の形をとらない話題提示があることを理解し、中心文を確かめながら説明されていることを整理している。(1)イ
・「中」に書かれた具体例を整理しながら読んでいる。(1)エ
書く能力
・「中」の部分で、内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成している。(1)イ
・自分の書き方と友達の書き方を比べ、上手に説明しているところに気づくことができる。(1)カ
言語についての知識・理解・技能
・接続語を適切に使って文を書いている。(1)イ(ク)

<児童の実態>

子ども達はこれまで、説明的な文章の学習として、「イルカのねむり方」、「ありの行列」で、文章構成(はじめ・中・終わり)に気をつけて読んだり、「問い」と「答え」は何か、どのように答えを出したのか読み取る学習をしてきた。これらの学習を通して、接続語や文末表現を手がかりにしながら、文や段落のつながりを考えて内容を読み取ることができた。しかし、段落相互の関係を正確にとらえたり、事実と考えを分けて書いたりすることができる子どもは少ない。

子ども達は、ペアやグループ学習を好み、特にペア学習では、お互いに考えを聞き合う中で、自分の考えを再構築できる場をとらえている子が多く、積極的に自分の意見を伝えることができるようになってきた。

3 学習指導計画 (全14時間)

＜本単元における必要な既習事項＞				
		・段落	・説明文のおおまかな構成	・接続語や文末表現
時	目 標	学 習 活 動		評価規準 (評価方法)
第一次 単元の学習のねらいを知り、学習の見通しを持つ。				
1 2	「食べ物のひみつブックを作る」という学習のゴールを知り、学習計画を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元を貫く課題「食べ物のひみつブックを作ろう」を設定し、学習計画を立てる。 ・ 「すがたをかえる大豆」の書き方の工夫をもとにして「食べ物のひみつブック」をつくるという、単元のめあてをつかむ。 ・ 食物に関する本を並行して読書していくことを確認する。 		【関】大豆がさまざまな食べ方をされていることに関心をもち、文章構成を理解しながら読もうとしている。(活動の様子)
第二次 筆者の説明の仕方の工夫を知る。				
3	文章の全体構成とそれぞれの部分のおおまかな内容・役割をとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章構成や段落の役割について「イルカのねむり方」、「ありの行列」と比較し、共通点や相違点を話し合う。 ・ 「はじめ」「中」「おわり」の部分に書かれてあることを読み取る。 		【読】「問い」の形をとらない話題提示があることを理解し、文章で説明されていることを整理している。(ノート)
4	「中」の段落を読み、段落ごとの説明の工夫をとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中」の5つの段落に共通する説明の仕方について、筆者がどのような工夫をしたのか話し合う。 ・ おいしく食べる工夫と食品を読み取る。 		【読】「中」を読み、5つの段落に共通する説明の仕方について分かったことを書いている。(ノート)
5	「中」の段落を読み、段落の並べ方の工夫をとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中」の5つの段落の説明の順番について、筆者がどのような工夫をしたのか話し合う。 ・ 簡単な工夫から順番に例が挙げられていることに気付く。 		【読】「中」を読み、説明の順序の工夫について分かったことを書いている。(ノート)
6	説明文のわかりやすい書き方を知ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かりやすい文章にするための工夫をまとめる。 ・ 説明の仕方のポイント(文章構成・事例選択・事例の順番・接続語)について整理する。 		【読】例を挙げて説明する文章のわかりやすい書き方を理解している。(発表)
第三次 食べ物のひみつブックをつくる。				
7 8	食品の紹介が中心文である補助教材「ミラクルミルク」を読み、「食べ物のひみつブック」作りにつなげることができる。 選んだ食材について調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「すがたをかえる大豆」と「ミラクルミルク」の説明の仕方を比較する。 ・ 説明文を書くときに真似したいところを発表する。 ○ 選んだ食材が、どのような食品に変化するかわかったことを情報カードにメモする。 		【書】食べる工夫を中心文にするか、食品の紹介が中心文にするか決めている。(発表) 【書】選んだ食材について調べている。(情報カード)
9	第二次で学習したことをいかして、「はじめ」「中」「終わり」の全体構成を考えて、「はじめ」「おわり」の文章を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した説明の仕方の工夫をいかして、メモをもとに「はじめ」「おわり」の文案を書く。 ・ 「はじめ」に説明する食材を書く。 ・ 「おわり」に全体のまとめを書く。 		【書】第二次で学習したことをいかして、「はじめ」「中」「終わり」の全体構成を考えて、「はじめ」「おわり」の文章を書いている。(ワークシート)
10 11	第二次で学習したことをいかして、「中」には具体的な例を挙げて文章を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明したい順番を考えて、メモをもとに「中」の文案を書く。 ・ 「中」の文章を、文例にならって短冊に書く。 ・ 説明したい順番に並べ、接続語を書く。 		【書】第二次で学習したことをいかして、「中」の部分で、内容のまとまりごとに段落を分け、文章を構成している。(ワークシート)
12	下書きした文章を読み返し、推敲することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章構成や接続語の使い方が適切か視点ごとに確かめ合う。 ・ 下書きをし、書いた文を小ループで見直す。 		【言】接続語の役割を理解し、適切に使って文を書いている。(ワークシート)
13 14	友達が書いた文章を読み合い、分かりやすく説明するためのポイントをまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の書き方と友達の書き方を比べながら、説明の仕方の良いところを発表し合う。 ・ 題名や文を照応する絵を入れて清書する。 ・ 作品を読み合い、感想を書く。 ・ 「食べ物のひみつブック」の紹介(クイズ形式)に行く計画を立てる。 ・ 単元全体の学習を振り返る。 		【関】自分の書き方と友達の書き方を比べ、上手に説明しているところに感想に書いている。(ノート)
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">＜教材の発展＞</div> <div style="text-align: center;"> <p>4年「アップとルーズで伝える」 → 5年「見立てる／生き物は円柱形」</p> </div> </div>				

4 本時の指導（5 / 14）

(1) 目標

- 「中」の段落を読み、段落の並び方の工夫をとらえることができる。

(2) 本時の指導にあたって

- ・「中」の段落を入れ替えた「おいしく食べる工夫」と「食品」を提示し、子ども達に並び替えをさせる活動をさせながら、並び方には筆者の説明の意図と工夫があることを知らせる。その後、段落の順序について一人学びしたことをペアで、自分の考えと友達のことを比べさせる中で、考えの再構築ができるようにしたい。また、学び合いの場では、そう考えた理由を発表させる中で、筆者の説明の仕方の工夫を考えさせたい。

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点・評価
つかむ・見通す 10分	1 前時までの学習を振り返る。 ・段落の要点と食品名 2 本時の学習課題を確認する。 「中」の段落の説明の順番について、筆者はどのような工夫をしたのか考えよう。 3 課題解決の見通しを持つ。	・大豆がどんな工夫によって、どんな食品に変わったか確認する。 ・段落の要点と代表する食品を提示し、どんな順序で説明させていたか、段落の並び替えの活動をさせる。その中で、並び方には筆者の説明の意図と工夫があることを知らせる。また、接続語をもとに考えることで、筆者の段落の順番に並び替えることができることを確認する。 ・段落の順番について、筆者はどのような工夫をしているか、また、どんな効果があるのか、課題解決の見通しを持たせる。
考える 10分	4 学習場面を音読する。 ○3～7の段落を段落ごと音読。 5 一人学びをする。 ○「中」の段落で、その順番にしたわけを考え、ノートに書く。 ○ペア学習で、自分の考えと友達のことを比べながら考えを深める。	・指名音読で読ませる。 ・どんな順番で「中」の段落が説明されているのか考えさせる。 ・ペア学習の仕方を確認する。 ・ペア学習では、お互いの考えの共通点や相違点を聞き分けながら、分かったことを話し合わせる。
深める 学び合いの場	6 学び合う。 (1) 筆者の段落の順番の工夫について、全体で話し合う。 ・段落の順番 ①手を加える回数が少なくわかりやすい順 ②大豆のすがたの変化が少ない順 (2) 筆者の段落の順番にすると、どんな良さがあるのか、話し合う。 ・どんな良さ	・手を加える回数や時間が少ない順番であることを、「中」説明から作業手順を書き出し確認させる。また、手を加え方が多いほど、大豆の姿が変化した食品が変わることを写真をもとに確認させる。 ・読み手を意識した、理解しやすい順番で説明されていることに気付かせたい。

15分		<p><評価></p> <p>「中」を読み、説明の順序の工夫について分かったことを書くことができる。(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 個への支援：写真に着目させながら、大豆の変化に気付かせる。また、「みそ」と「いり豆」の作業手順を比較させながら、手の加え方を検討させる。
10分	<p>7 学習のまとめをする。</p> <p>○学習したことを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 筆者は、読む人を考えて、段落の順番を分かりやすいものから順に並べている。 </div> <p>○学習したことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助教材「ミラクルミルク」の「中」の段落の説明の順番について考える。 <p>8 本時の学習を振り返る。</p> <p>○自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習は、分かったか。 学習感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、「食べ物のひみつブック」を書くときに、筆者が使った工夫を取り入れながら書くことを、教室掲示を見ながら確認する。 接続語と「中」の段落の説明の順番は、説明内容に応じて変わることを確認する。 今日の学習を通して、身につけた力が実感できるように2項目の観点で振り返りをさせる。 今日の学習について、◎○△で自己評価させる。 がんばったこと、友達の良いところなどを書かせる。 次時は、説明文のわかりやすい書き方についてまとめることを伝える。

<板書計画>

まとめ
 筆者は、読む人を考えて、段落の順番を分かりやすいものから順に並べている。

これらのほかに	もやし	さらに	また	次に	いちばん分かりやすいのは
みそ	いり豆	きなこと	とうふ	きなこ	いり豆
むす コウジカビ しお にてつぶした 大豆を加える 待つ	いる	いる こなをひく	水にひたす すりつぶす 熱する しぼる にがり	いる	いる
多い 多い	手を加える回数 大豆のすがたの変化	少ない 少ない			

すがたをかえる大豆 国分 牧衛
 「中」の段落の説明の順番について、筆者はどのような工夫をしたのか考えよう。
 どんな順番 どんな良さ

細案 1 何かの順番で並んでいるのではないか。答え 読む人のことを考えて

1 いたり、にたりする工夫 豆まきの豆、に豆

こなにしておべる工夫 きなこ

えいようを取り出してちがう食品にする工夫 とうふ

小さな生物の力でちがう食品にする工夫 なっとう みそ しょうゆ

とり入れ時期や育て方をおえておべる工夫 えだ豆 もやし

2 黒板提示 (バラバラ)

3 あれ、順番はこれで良かったかな。

どうして筆者は、この順番にしたの

・「すがたをおえる大豆」と「ミラクルミルク」の共通点や相違点、説明文を書くときに真似したいところをワークシートに書く。